

国際会計人材育成に関する FASF/ASBJの取組み

『季刊会計基準』編集部

はじめに

国際会計人材は、作成者、利用者、監査人、会計基準設定主体など各セクターで人材が求められており、またその人材もいくつかの層に分かれていると考えている。国際的な会議に参加し直接対話ができる人材、国内における意見形成に参画できる人材、IFRS適用企業の拡大に対応できる人材など階層ごとに人材の確保、育成が必要であると考えている。

特に、本特集にご寄稿いただいた5名の方々のようにハイレベルな人材を育成することが我が国にとって喫緊の課題となっている。

これらの目標を達成するためには、関係者の協力のもと、当該分野に対する人材リソースの

確保、国際活動に対する環境・人材評価の整備などを進めていく必要がある。

財務会計基準機構（FASF）及び企業会計基準委員会（ASBJ）では、国際会計人材の育成を目的として、現在、主に会計人材開発支援プログラムと国際会計人材ネットワークを主催しており、本稿ではその概略を説明する。

会計人材開発支援プログラム

会計人材開発支援プログラムは、中長期的な国際会計人材の発掘・育成に向けた取組みで2012年から開催している。現在、第4期のプログラムを遂行中であり、各期の人数は以下のとおりである。

	期 間	セクター別人数	合計人数
第1期	2012年1月～2013年12月	作成者9名、利用者8名、監査人17名	34名
第2期	2014年5月～2015年12月	作成者8名、利用者4名、監査人10名	22名
第3期	2016年10月～2017年10月	作成者8名、利用者3名、監査人4名	15名
第4期	2018年1月～	作成者8名、利用者4名、監査人4名	16名

第4期のプログラムの内容は、以下のとおりである。

- 概念フレームワークに関する講義
- ASBJ関係者との議論

- その他の国内関係者との議論
 - IFRS 関係者との意見交換
 - 英語によるディスカッション・トレーニング
第1期から第3期のプログラムの受講修了者については、以下の人材を輩出している。
 - IFRS 財団の諮問会議の副議長 1名
 - IFRS 解釈指針委員会委員 1名
 - IASB のスタッフ（在ロンドン）3名
 - ASBJ の専門研究員 7名
 - ASBJ の専門委員会の専門委員 11名
- 上記の他、多くの受講修了者が各団体の会計基準設定に関連する活動に参加しており、一定の成果を挙げている。

国際会計人材ネットワーク

国際会計人材ネットワークは、IFRS に関して国際的な場で意見発信できる人材及び IFRS に基づく会計監査の実務を担える人材等の育成を目的に、国際的な会計基準に関する知見や語学力等を有する人材のプールとして、2017年4月に構築されたものである。

現在、ネットワークに登録している人数は、以下のとおりである。

	企業の役員・従業員	公認会計士・監査法人勤務者	証券アナリスト	基準設定主体の委員・研究員	官庁の行政官	学識経験者	合計
2017年4月27日	55名	642名	17名	28名	11名	0名	753名
2018年5月1日	89名	641名	24名	29名	12名	1名	796名

同ネットワークでは、これまで以下の取組みを行っている。

<シンポジウム>

- 国際会計人材ネットワーク第1回シンポジウム「国際的に活躍できる会計人材をめざして」（2017年7月）
 - 池田唯一 金融庁総務企画局長（当時）講演
 - パネル・ディスカッション「国際組織でどう活躍し、キャリア形成に活かすか」及び「求められる国際会計人材像」
- 国際会計人材ネットワーク第2回シンポジウム（2018年3月）
 - IASB Nick Anderson 理事講演
 - パネル・ディスカッション「損益計算書の新しい姿」

<国際会計人材ネットワーク定例会（50人程度の会合）>

- 第1回 講師：IASB 鷺地理事（2018年2月）
 - 「企業活動と国際ルールづくりへの関与」

- 第2回 講師：池田唯一 金融庁総務企画局長（当時）（2018年5月）
 - 「今後の企業会計の課題」
- 第3回 講師：湯浅一生 富士通（株）執行役員常務（2018年8月）
 - 「企業における国際会計人材育成の課題」

<その他の取組み>

- IASB Nick Anderson 理事及び IASB 鷺地理事との少人数会合（2018年3月）
 - 持分法投資損益の表示

このように FASF では、関係者の協力の中、国際会計人材の育成のための取組みを進めている。

今後とも国際的な会計基準への我が国の影響力を維持・向上させていくため、継続的に国際会計人材の育成に取り組んでいく所存である。